



白瀑と黒滝

八峰白神ジオエリアには奇しくも二つの滝、「白瀑」と「黒滝」があります。

白瀑は「みこしの滝あび」で親しまれている白瀑神社境内の裏にある滝です。さて、黒滝はどこにあるのでしょうか。そうです、真瀬川上流の支沢のひとつである中ノ又沢にあります。

ジオエリアマップでは⑨番の位置にあり、真瀬岳に登山する人たちや林業にたずさわる人々にとっては、道すがら見ることができるので馴染み深い滝

となつています。

この黒滝を最初にスケッチと短歌で紹介した方が、本連載でたびたびご紹介した、元秋田大学学長であられた渡辺万次郎博士であります。昭和38年8月にこの地を訪れて、真瀬川溪谷の美しさに心を奪われていた様子でした。そしてこの黒滝が眼前に現れた時の様子を短歌に書き留めてあります。

鉄の色を凝らして立つ岩に

懸りて播ぐ滝のいく筋



真瀬川谷鳥見 38 3 16

玄武岩の生い立ち

図に描かれている滝は同氏が描かれたスケッチです。水量は少なく、白瀑のように勢いよく流れることはなく、筋状になって流れています。そして黒い玄武岩でできている岩肌は白い筋状の水の流れを際立たせていて、見る人を引きつけます。

さて、この玄武岩はどんな岩石なのでしょう。地下50〜200kmにどろどろに溶けたマグマができることがあります。そのマグマが地表に向かって

上昇してくると、マグマの温度が少しづつさがり、やがてかたまってしまします。こうしてできた岩石を火山岩とよんでいます。火山岩はマグマの成分のちがいがから三つに分類されていて、それぞれ玄武岩、安山岩、流紋岩（りゅうもんがん）とよんでいます。

玄武岩は黒っぽく、流紋岩は白っぽい石で、安山岩はその中間の色を示します。八峰町ではこの種類の石が見られるので、山菜採りの時や磯釣りの時など、三種類の石を探してみるのも楽しいものかもしれません。

ちなみに黒滝を作っている玄武岩には「一ノ又沢玄武岩層」といういかめしい名前がつけられていて、八森地区では一ノ又沢流域の中心域にだけ分布しています。

八峰白神ジオパーク推進協議会

研究専門員 工藤 英美

八峰町八森三十釜一四四一
ぶなつこランド内

TEL 0185-177-3086